

子どもと教育・文化を守る大阪府民会議
が作成した「チャレンジテスト」ピラ



維新政治を問う

中3の「チャレンジテスト」が内申書の学校平均を決定する団体戦であるのに対して、中1、中2の「チャレンジテスト」は一人ひとりの内申書評定を決定する個人戦

から受験競争に追い立てられます。それも中1、中2の内申書評定は、中間や期末テストなどの学校の成績にかかわらず「チャレンジテスト」の

意味が全くありません。いま大阪府公立中学校校長会は、府教委に対して「高校入学者選抜方法について、調査書に記載する評定については各中学

チャレンジテスト

(中)

中学1年から受験競争

学校選択制推進と一体

結果によって最終的に決定されます。説明ができません。そのため今年3月には、各学校が責任をもつ

「なせ、こんな評定にな

降、松井一郎知事と中原徹・前府教育長は、府内の各市町村教育長や府中学校長会の反対をおし切

大阪教職員組合委員長

田中 康寛さん

2012年1月に、橋下徹大阪市長(当時)が学校選択制導入と一体的に「市内中学校の中間・期末試験の統一化」を提案したことが「チャレンジテスト」導入の端緒と

(寄稿、つづく)